

あなたの指導って

「イマドキツ?!」

SOFTBALL



していませんか？

こんな指導

“何回言ったら
わかるんだ!”

威圧的な言葉で選手に対して執拗なプレッシャーを与えることは、脅しと同じです。選手の人格を無視し、心に深い傷を負わせる行為は絶対に許されるものではありません。

“ダメだ、
体が思うように動かない”



“ミスしたら
許さないぞ!”

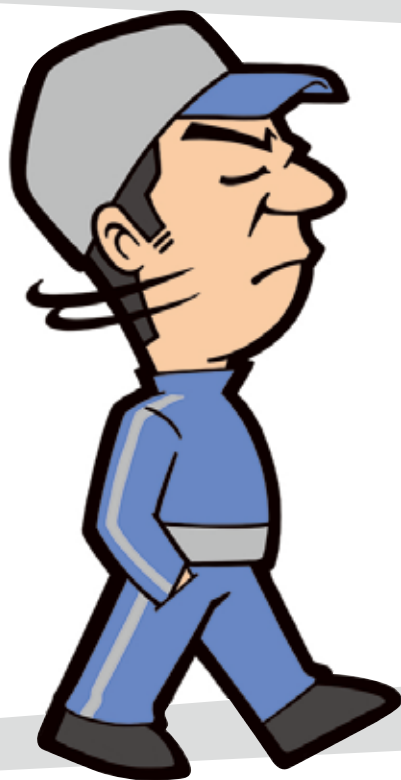
“こ、こわい…”



“グラウンド100周だ!”

このような行為は「体罰」とみなされます。

体罰とは私的に罰を科す目的で行われる身体への暴力行為で、絶対に許される行為ではありません。



“もう練習に来なくていい!”

指導者が選手を無視したり、選手に無視を促す行為は、選手の心に大きなダメージを与える卑劣な行為です。

“ちょっとマッサージしてくれ!”

男女を問わず、異性の選手にこのような行為をさせた場合は、重大なセクハラ事案となります。



理想の指導者とは

Ideal Coaching



- 指導者は絶えず学び続ける姿勢をもつ
- 一方的な指導にならないよう、指導のねらいや内容を選手と共有するためのコミュニケーションスキルを高める姿勢をもつ
- 選手にスポーツ(ソフトボール)を通じて人格の形成、生きる力の育成を図ることができる指導に徹し、「人間力」を高める指導をめざす
- ソフトボール競技の社会的認知度を向上させる姿勢をもつ

まずは、現代社会におけるルール(秩序)として、**体罰(暴力)**が決して許されないものであると理解することが求められる。

指導者は、時代が求めている指導者像を十分に理解することが必要である。**体罰(暴力)**では何も得られないことを自覚すること。そして、**体罰(暴力)**で得られた勝利は、「真の勝利」とは認められない。

あなたの指導って「イマドキッ?!

体罰・ハラスメント・ いじめがもたらすもの…

選手の将来を奪っていませんか？

〈学校教育現場での例〉

- 体罰を加え、児童・生徒を死亡させた、または重大な傷害を負わせた場合

▶ 免職または停職

- 体罰を加え、児童・生徒に傷害を負わせた場合

▶ 停職または減給

- 上記以外の体罰を加えた場合

▶ 戒告

なお、体罰の内容が著しく悪質もしくは危険な行為である場合、隠蔽や常習性がある場合等についても、**停職以上の処分**の対象となり得ることがあり、当然、**法的責任が生じる**。

モラルを持った指導で選手との信頼関係を築く（写真はイメージです）



体罰・ハラスメント・ いじめがもたらすもの…

選手の将来を奪っていませんか？

〈スポーツ少年団での例〉

- 体罰を加え、児童・生徒を死亡させた、または重大な傷害を負わせた場合

▶ 指導者資格の剥奪及び法的責任

- 体罰を加え、児童・生徒に傷害を負わせた場合

▶ 指導者資格の剥奪または資格停止

- 上記以外の体罰を加えた場合

▶ 指導または勧告

なお、体罰の内容が著しく悪質もしくは危険な行為である場合、隠蔽や常習性がある場合等についても、**資格停止以上の処分**の対象となり得ることがある。

モラルを持った指導で選手との信頼関係を築く（写真はイメージです）



セルフチェックシート

指導する前に必ずチェックしましょう。

次の8項目を読んで、あなたの考えや行動に「あてはまる」か「あてはまらない」かを判断してみましょう。

あてはまる: YES / あてはまらない: NO

YES NO

1. 指導者として、継続的に指導能力の資質向上に努めているか

2. 指導者として、プレイヤーに対してパワハラ・セクハラ行為と誤解されることのないよう、常に自分の行動に留意しているか

3. 指導者として、プレイヤーに対して、指導目標や内容を明確にした計画を示しているか

4. 指導者として、プレイヤーとのコミュニケーションの充実に努めているか

5. 指導者として、プレイヤーの自主的、自発的な活動ができるよう配慮しているか

6. 指導者として、プレイヤーの健康管理・けが防止に留意しているか

7. 指導者として、用具・施設等の安全管理に留意しているか

8. 指導者として、指導するチームが地域社会から評価されるような取り組みを行っているか

上記の項目の中で、あなたの考えや行動に「あてはまらない」ものがひとつでもあれば、あなたのその考えや行動について一度振り返ってみる必要があります。

スポーツ指導者である前に ひとりの人間として…

理想の 指導者像

Ideal Coaching

指導者としての心得

- 誰に対しても公平・平等で公正な態度を保つ
- 常に冷静で客観的な視点を忘れない

自ら学ぶ

- 自ら進んで指導技術・トレーニング方法を学び、取り入れる
- 「過去の栄光」や「長年の経験」にこだわらず、時代の流れに即応する
- 自らの指導を論理的に説明できるだけの「裏付け」を学ぶ

プレイヤーズファースト

- 「優勝」の名誉・名声のためでなく、「選手のための指導」を行う
- 目の前の勝利より、「選手の将来」を考えた指導をする
- 「選手のために」何ができるかを考える

勝利至上主義に陥らない

- 「勝てばいい」のではなく、「強くて愛されるチーム」作りをめざす
- 「勝つこと」より「全力でプレーすること」を求める
- 「勝つためには手段を選ばない」のではなく、正々堂々と戦うことの大切さを教える

モラル

- 指導者としてのモラルを保ち、自らの言動を律し、日々省みる
- 指導者の選手に対する影響力の大きさを考慮・意識した言動をする
- 暴力行為・体罰はどんな理由があっても許されない

スポーツを理解する

- ソフトボール競技の持つ楽しさ、面白さ、魅力を伝える指導を行う
- チームスポーツであるがゆえの「仲間」の大切さ、チーム全員が協力し、一致団結して何かを成し遂げたときの達成感や喜びを伝える

目標と目的の設定

- チームがめざす「目標」、ソフトボールを行うことの「目的」を明確に伝える
- チームがめざす「目標」とともに、選手一人ひとりに「目標」を与え、それを成し遂げるために全力で努力し、サポートする
- 「ソフトボール」をすることの意義・意味を選手とともに考える

コミュニケーション

- 選手との「信頼関係」を築くために積極的にコミュニケーションをとる
- 選手の日々の健康状態・心理状態を理解するためにもコミュニケーションをとる
- 周囲(学校、保護者、職場、地域)の支え、連携・協力が重要であることを理解し、そのためのコミュニケーションを図る